

研究結果説明書

1. 事業の実施期間

令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

2. COREネットワークの構成

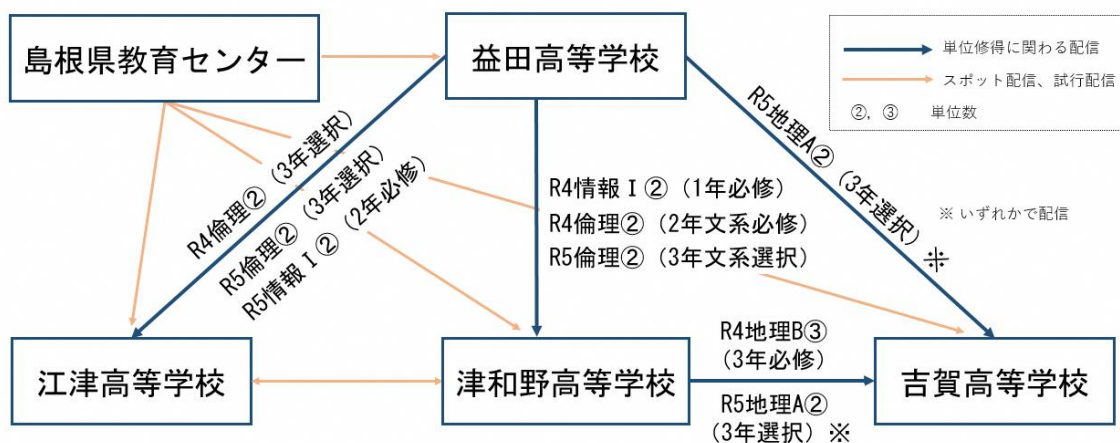
(1) COREネットワークの名称：石見オロチCOREハイスクール

(2) COREネットワークを構成する高等学校等

- ① 益田高等学校 (配信校)
- ② 江津高等学校 (受信校)
- ③ 津和野高等学校 (配信校・受信校)
- ④ 吉賀高等学校 (受信校)

3. 調査研究結果の概要

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)



【遠隔授業の配信校・受信校 関係図】 *スポット授業：単位認定をせず年間一定回数配信する授業

本年度実施した遠隔授業実施科目は以下のとおりである。

<単位認定を行う授業>

- ・科目：地理B 3単位 3年 21名 津和野高校 → 吉賀高校
- ・科目：倫理 2単位 2年 38名 益田高校 → 津和野高校
- ・科目：倫理 2単位 3年 14名 益田高校 → 江津高校
- ・科目：情報I 2単位 1年1組 27名 益田高校 → 津和野高校
- ・科目：情報I 2単位 1年2組 27名 益田高校 → 津和野高校

<試行配信>

- ・科目：情報I 1年1組 益田高校 → 江津高校
- ・科目：情報I 1年2組 益田高校 → 江津高校

本年度の実証検証は、上記の「単位認定を行う授業」を遠隔配信にて行うことにより、以下の①～⑤の項目について検証を行った。

< 検証項目 >

- 1) 遠隔授業に必要な I C T 環境
- 2) 授業づくり・生徒の見取り・評価
- 3) 受信校で授業に立ち会う者の資質や役割
- 4) 遠隔授業を受けた生徒の評価や変容
- 5) 持続可能性のある遠隔授業の環境・支援体制について

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

4校運営調整会において、学校間連携をスムーズに行うための調整を行う。また、それに伴う実務に関わる担当者会（管理職、アドバイザーを除く）を適宜開催する。

【組織】 ◎は事務局（県教育委員会）、○はメンバー

●「4校運営調整会」

- ◎教育指導課高等学校教育推進スタッフ [統括]
- ◎教育指導課地域教育推進室スタッフ [コンソーシアムに関すること]
- ◎島根県教育センター 研究・情報スタッフ [遠隔授業に関すること]
- 構成4校（メンバー：管理職、各校CORE担当者（主幹教諭））
- アドバイザー
 - ・CIO 島根県地域振興部情報政策課 山口 悟 CIO 補佐官
 - ・事業評価委員
 - 公立鳥取環境大学環境学部 教授 千代西尾 祐司 (ICTアドバイザー 兼務)
 - 島根大学教育学部 准教授 中村 怜詞
 - 島根県立大学総合政策学部 教授 赤坂 一念

※県教育委員会と島根大学とは高大連携で、島根県立大学と包括的連携において平成31年に協定を締結している。内容にカリキュラム開発も含まれている。
なお、この4校運営調整会に「事業評価委員会」の機能を持たせる。

●「4コンソーシアム連絡会」

- ◎教育指導課地域教育推進室スタッフ
- 各校に所属するコーディネーターもしくはコンソーシアム関係者等

【開催回数等】

4校運営調整会は学期に1回程度開催する。4コンソーシアム連絡会は適宜開催する。開催はオンラインを基本とする。

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

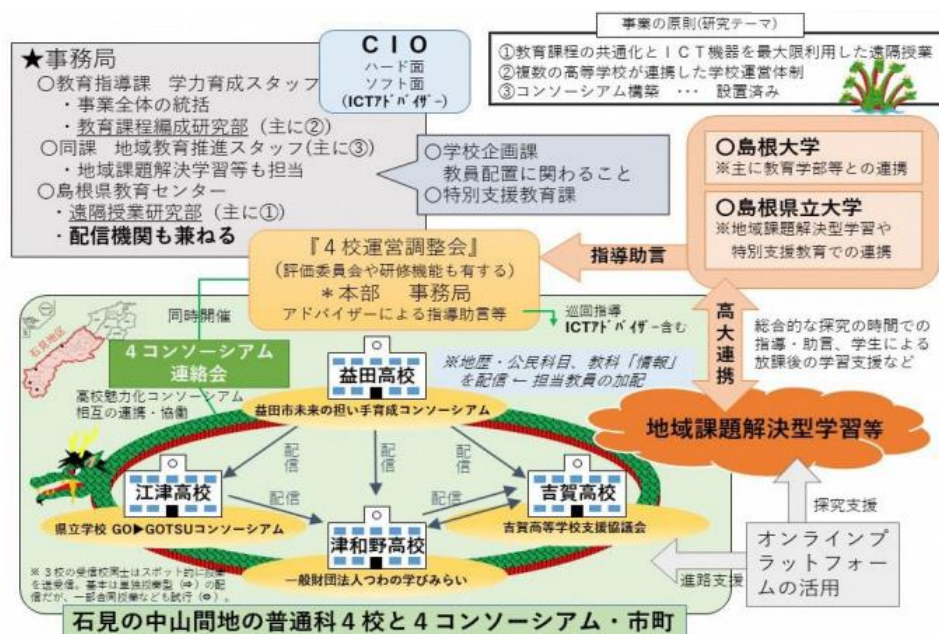
本県ではすでに各校が地域とコンソーシアムを形成し、ビジョンを共有しながら教育課程内外で学びの充実を図っている。一方で、各校のコンソーシアムが行っている連携の内容や成果等については、広く情報が共有されていない。本事業を機に他のコンソー

シアムの取組を知り、好事例を共有することで、各コンソーシアムの連携がさらに進むと考える。

そこで、4校のコンソーシアムの協働体制や取組状況等を共有する会議を開き、各コンソーシアムの今後の取組に活かすほか、将来的には複数校での「総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）」の共同授業を実施する。

また、県教委で構築を構想している「オンライン探究支援システム」（仮称：旧「オンラインプラットフォーム」）の人材マッチング機能を4校で先行的に活用し、地域課題解決学習でのテーマ設定や学習方法等での指導助言に大学の教官や学生の知見を借りる。事業推進にあたっては地域課題解決型学習の分野に長けている島根大学教育学部の中村怜詞准教授や、地域政策学部のある島根県立大学高大連携室長の赤坂一念教授と連携を図る。

なお、令和3年度から4年間の「しまねの学力育成推進プラン」では、取組の3本柱の一つである「地域に関わる学習の充実」に小中高で取り組むこととしている。



4. 調査研究の実績

(1) 実施日程

月	実施内容 (●全体 ■各校)	
	配信授業	コンソーシアム・探究学習
令和5年 4月	●業務委託締結 ●4校運営調整会 ■授業配信オリエンテーション ■遠隔授業配信	■地域課題解決型学習
5月	■遠隔授業配信	●グランドデザインPDC A研修 ●地域との協働体制構築・運営研修 ■地域課題解決型学習
6月	■遠隔授業配信	■高校魅力化アンケート ■地域課題解決型学習

7月	<ul style="list-style-type: none"> ■遠隔授業配信 ●授業アンケート ●実証地域連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域課題解決型学習 ●実証地域連絡会議
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■遠隔授業配信 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校魅力化アンケート分析会 ■地域課題解決型学習
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■遠隔授業配信 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域課題解決型学習
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●公開授業 ■遠隔授業配信 ■教育長視察（倫理・情報Ⅰ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●グランドデザインPDCAR研修 ■探究学習2校合同実施 ■地域課題解決型学習 ■教育長視察（探究学習2校合同実施（吉賀高校⇄津和野高校））
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●中間事業評価 ■遠隔授業配信 ●実証地域連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域課題解決型学習 ●実証地域連絡会議
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価アンケート ●授業アンケート ●Webヒアリング ●4校運営調整会 ・Webヒアリング等報告 ・次年度遠隔授業説明 ・本年度の取り組みについての状況確認、課題共有 ・次年度の計画 ・各校情報共有 ■遠隔授業配信 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価アンケート ■地域課題解決型学習 ●Webヒアリング
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●CIO協議（遠隔環境報告） ■選択科目希望調査 ■遠隔授業配信 ■配信校・受信校の時間割調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域課題解決型学習
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●年度末事業評価 ●公開授業 ■遠隔授業配信 ■情報Ⅰ試行配信 ■配信校・受信校の時間割調整 	<ul style="list-style-type: none"> ●しまね探究フェスタ ●グランドデザインPDCAR研修 ■コンソーシアム役員会 ■地域課題解決型学習
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●4校運営調整会 ・事業成果報告会報告 ・本年度の取り組みについての総括 ・次年度の計画 ・遠隔担当教員の研修について ・各校の指導体制について ・時間割の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ●4コンソーシアム連絡会 ■地域課題解決型学習

	<ul style="list-style-type: none"> ●授業アンケート ■宮崎県CORE視察 ■遠隔授業配信 ■情報Ⅰ試行配信 ■配信校・受信校の時間割調整 	
--	---	--

※学校における調査研究の実績のほか、コンソーシアムの活動等についても記入すること。

※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを付すこと。

(2) 調査研究実績の説明

- ①「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

実証検証2年目の遠隔授業は以下のとおりである。

<単位認定を行う授業>

- ・科目：地理B 3単位 3年21名 津和野高校 → 吉賀高校
- ・科目：倫理 2単位 2年38名 益田高校 → 津和野高校
- ・科目：倫理 2単位 3年14名 益田高校 → 江津高校
- ・科目：情報Ⅰ 2単位 1年1組27名 益田高校 → 津和野高校
- ・科目：情報Ⅰ 2単位 1年2組27名 益田高校 → 津和野高校

<試行配信>

- ・科目：情報Ⅰ 1年1組 益田高校 → 江津高校 (2月 7日)
- ・科目：情報Ⅰ 1年2組 益田高校 → 江津高校 (3月22日)

1) 遠隔授業に必要なICT環境

- ・配信校・受信校の機器、クラウドサービス等の環境

本県の遠隔授業では、民生品等を組合せるなど簡易な設備・サービスにより授業が実現できるように設計を行っている。これにより、教育委員会で各学校に提供しているサービス、学校にある機材を組み合わせることにより遠隔授業が実現できることから教師の遠隔授業のための研修(学習)コストを下げる事ができた。

また、本年度授業実施した教員について、遠隔授業に取り組むことによりICT活用が進み対面での授業手法も授業改善が進んだ。これは、遠隔授業への取り組みから授業担当者のICTリテラシーが向上し、対面授業においてもICTを活用した授業へとつながったということである。

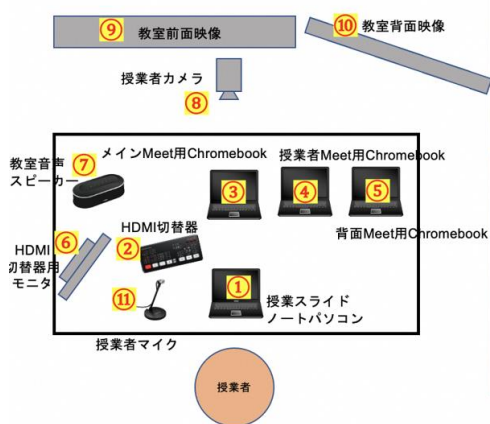
- ・ネットワークの強度

本県のネットワークについては、GIGAスクール構想以前の設計思想であり、7校を1つに集約していることから、接続速度が20～50Mbpsである。各校の利用が集中するタイミングと重なるとネットワーク速度が落ちるため、Google Meetでの接続について画面が止まったり、音声途切れることがあった。令和5

年度中にネットワークの増強を行うことになっており、これが実現すれば各校とも300～900Mbpsのネットワーク速度を確保できる見通しとなっている。ネットワークの増強後には生徒一人ひとりがGoogle Meetに接続するなど生徒の顔の表情を授業者から見えるようにするなど、質の向上に挑戦したい。

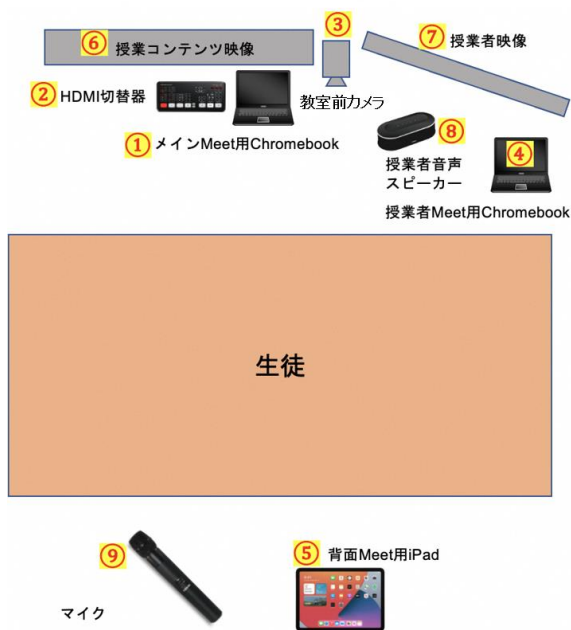
配信・受信環境については以下のとおりである。

配信拠点



音の反響を抑えるため、防音措置している

受信校



・配信側・受信側（※は受信側のみ）

機器種別	製品・サービス	台数
------	---------	----

遠隔会議システム	Google Meet	
クラウド環境	Google Workspace for Education Microsoft365	
遠隔システム用PC	Chromebook Dell 3110 Apple iPad Wi-Fi 256GB	3台 1台
カメラ	LOGICOOL PTZ PRO 2 SONY FDR-AX45A スイッチャー：Blackmagic Design ATEM MINI PRO	1台 1台 1台
マイク・スピーカー	ワイヤレスマイク：RODE WirelessGO II Single Wireless System、lavalierGO 指向性マイク：LINE6 XD-V35 ※ 無指向性マイク：YAMAHA YVC-1000 スピーカー：YAMAHA Stagepas 400BT ※	1台 1台 1台 1台
大型提示装置	プロジェクタ：EPSON EB-725WI ボードスタンド：IWS-10EF3 大型モニタ：IO-DATA LCD-M4K652XDB	1式 1台 1台
遠隔授業で使用するソフトウェア	Google Classroom、Google Documents、Google Spreadsheets、Google Jamboard、Google Slides Google Colaboratory、schoolTakt 他	
生徒用端末	ASUS Chromebook Detachable CZ1 (CZ1000) 生徒1人1台 (BYADによる生徒端末：1学年) Chromebook Dell 3110 (2・3年対象の授業においては各校人数分県教委で購入配置)	生徒個人持ち (1年生) 2・3年遠隔授業受講者人数分調達

・遠隔授業を行う教室のネットワーク速度

配信校・受信校の別	学校	計測場所	計測日時	計測結果
配信校	益田高校	I C T教室	7月4日 8時35分	29.5Mbps (ダウンロード) 48.5Mbps (アップロード)
受・配信校	津和野高校	2年1組教室	7月6日 13時20分	20.7Mbps (ダウンロード) 57.6Mbps (アップロード)
受信校	吉賀高校	合併教室	7月6日 17時00分	29.0Mbps (ダウンロード) 42.0Mbps (アップロード)
受信校	江津高校	2A教室	7月4日 9時31分	29.5Mbps (ダウンロード) 46.7Mbps (アップロード)

2) 授業づくり・生徒の見取り・評価

倫理の授業では、主体的・対話的で深い学びを実現し、その評価を行うにあたり、知識構成型ジグソーを取り入れ、Google Classroom、Spreadsheet、Jamboard を用い実施した。対話による学習場をクラウド環境へ入力し、生徒の活動を言語化し、見える形にしたことにより遠隔地から生徒の活動を見取ること、それを利用して学習状況評価につなげることができた。

情報 I のプログラミングの単元では、Google Colaboratory を実行環境として利用した。Google Colaboratory はクラウド環境でシートを共有して編集できることから、生徒の実習の様子を遠隔地からも確認できる。シートを生徒と教員がお互いに関き、内容確認することにより、学習状況を授業者が把握しながら授業をすすめることができた。しかし、生徒数も多いこと、プログラミングの躓きなどが生徒により異なることから質問を行いたい場面で質問ができなかったり、指導のタイミングが合わなかったりしたことから、生徒の質問の仕方、教師のアドバイス等の方法に課題が残った。今年度は生徒同士の教え合いや ICT 支援員が参加可能な日は教室にてサポートした。今後もさらなる研究が必要である。

3) 受信校で授業に立ち会う者の資質や役割

各受信校のサポート教員は配布物の印刷、出席管理、機器の接続、教室の危機管理、授業者の支援等を主な役割とした。機器の接続など ICT の知識・技術の専門家ではないことから年度当初は機器接続、Google Meet の接続など不安の声があったが、システム接続マニュアルなどの整備により手順を示したことから、授業開始時の接続等はスムーズにできるようになった。しかし、ネットワーク環境が不安定な日に接続ができなくて課題対応にする日などもあったことから、サポート教員と授業者の間で、そのような場合にどのように対応するかなど事前に取り決めておくことが必要であった。これらの当初のマニュアルにない小さな工夫がこの 1 年で蓄積できたので、サポート教員マニュアル等に反映したい。

また、今年度は授業者の指示による一斉授業の形式が中心であった。グループ活動など対話の時間についても授業者が遠隔で指示、見取りを行いながら行ったが、次年度についてはサポート教員が授業者と協力して生徒の活動をファシリテーションするなど、より質の高い授業が実現できるようにサポート教員の役割について研究する必要がある。

4) 遠隔授業を受けた生徒の評価や変容

1 学期末の生徒アンケートによると遠隔授業を受けた生徒は遠隔授業と対面授業での差を想定よりも感じていなかった。しかし 2 学期、3 学期と進むにつれ対面授業との差を感じるようになっていっていることがアンケートから見取ることができた。これは遠隔授業に慣れて新鮮さがなくなっていくことや、ネットワークの不安定さによる映像、音声への不満、質問等が思うようにできないことなど様々な要因があると考えられる。

生徒は遠隔授業を経験することで、対面授業のメリットを感じているようである。また、一定数の生徒については、対面も遠隔も学ぶ内容について変わりがないことからどちらでも授業理解ができるということを言っており、自ら学びに向かう生徒にとっては遠隔も対面も関係なく学習に取り組むことができるようである。

5) 持続可能性のある遠隔授業の環境・支援体制について

各校の授業担当、探究担当者、事務職、管理職など複数との連絡役、事業運営上の課題等の把握等を主幹教諭が窓口として行うことで学校間の連絡がスムーズに進行した。基本は行政チャット、Google Classroom などのツールを組み合わせることに

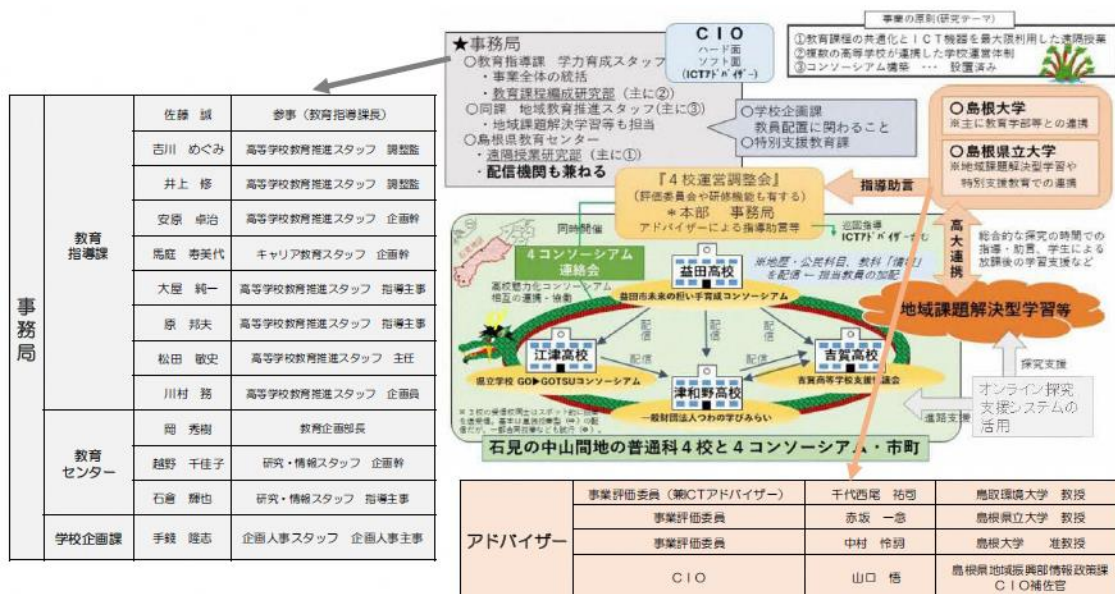
より、負担の軽減につながった。

学校を拠点とする配信においては、授業担当教員の負担、授業者の勤務校での役割分担などから、学校を配信拠点とするメリットよりもデメリットの方が大きかった。

②学校間連携を行うための運営体制に関する取組

4校運営調整会を中心とした組織については既述のとおりであるが、今年度の主な構成メンバーは次図のとおりである。

島根県の県立高校における主幹教諭の役割のひとつに、各校のグランドデザインの実現に向けた教育活動の推進があり、学校のマネジメント機能の強化、ならびに他の教員への指導助言による学校全体の教育活性化などが期待されている。そのため、本事業においては、構成校の主担当はすべて主幹教諭がとりまとめているのも、本県の特徴である。細かい調整などが必要な場合は、主幹教諭会を適宜開催することで各校間の連携に努めた。



○本年度開催時期・回数

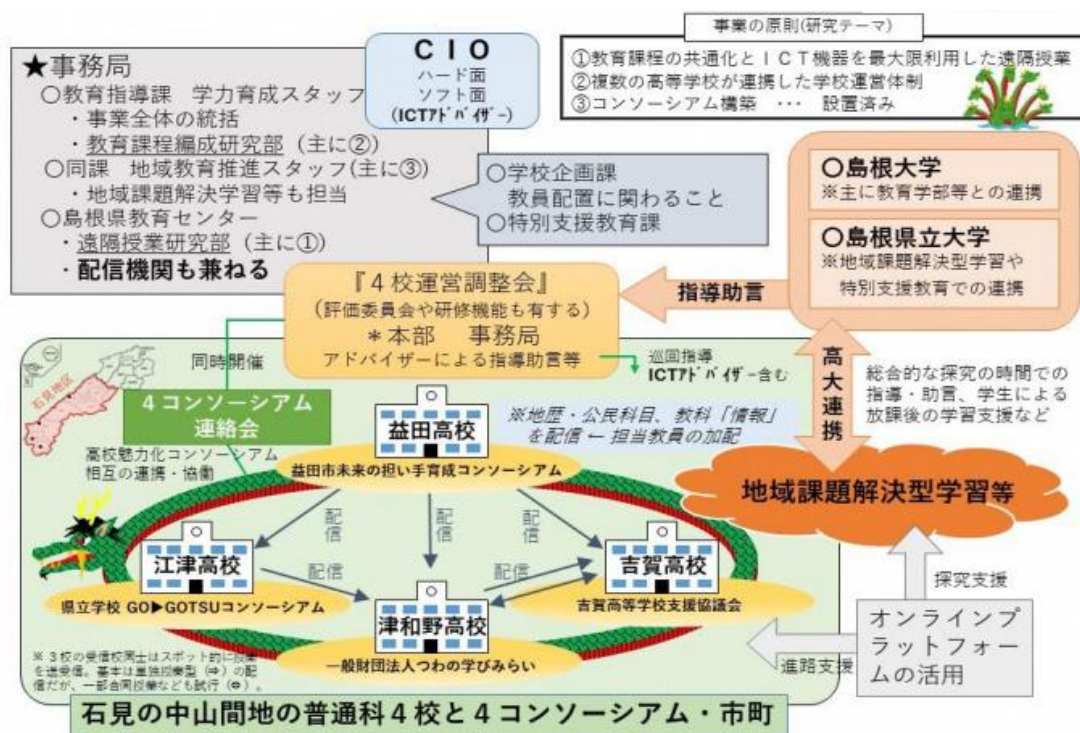
調整会・連絡会	開催月
4校運営調整会	4月、12月、3月
4校コンソーシアム連絡会	3月
主幹教諭会	4月、10月 庁内チャット、Classroomにより適宜情報交換

③市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

本県ではすでに各校が地域とコンソーシアムを形成し、ビジョンを共有しながら教育課程内外で学びの充実を図っている。一方で、各校のコンソーシアムが行っている取組や成果等については、広く情報が共有されていない。本事業を機に他のコンソーシアム

の取組を知り、好事例を共有することで、各コンソーシアムの連携がさらに進むと考え、4校のコンソーシアムの協働体制や取組状況等を共有する会議を開き、各コンソーシアムの今後の取組に活かすほか、将来的には複数校での「総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）」の共同授業を実施することを検討した。しかし主幹教諭・コーディネーター等からは、各コンソーシアムで持っている独自のノウハウやプログラムはそのコンソーシアムの財産であり、共有できる部分とそうでない部分もあるという意見が出てきたことから、今年度は探究学習等の情報共有、2校間の合同探究学習発表会を行うこととし、その他については次年度以降への課題とした。

また、県教委で構築を構想している「オンライン探究支援システム」（仮称：旧「オンラインプラットフォーム」）の人材マッチング機能を4校で先行的に活用し、地域課題解決学習でのテーマ設定や学習方法等での指導助言に大学の教官や学生の知見を借りて行った。オンライン探究支援システムについては、そのメリットはあったものの、経費等持続可能性の面から使用を断念することとした。



5. 遠隔授業の実施状況

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数（対面授業を除く。）
吉賀高等学校	地理・歴史	地理 B	50
津和野高等学校	公民	倫理	69
津和野高等学校	情報	情報 I (1-1)	71
津和野高等学校	情報	情報 I (1-2)	72
江津高等学校	公民	倫理	57
江津高校	情報	情報 I	2

6. 調査研究の進捗状況、成果、評価（※目標設定シート（別紙様式1 別添4）を添付）

別紙様式1 別添4 COREハイスクール・ネットワーク構想事業 目標設定シート

管理機関	島根県教育委員会 3240
------	---------------

1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			3.0以上	3.2以上
実績値			3.0	-
把握のための測定方法及び指標	遠隔授業に対する授業アンケート（各学期）から、各観点別評価の項目に係る質問（4～1）に対し肯定的な回答をした生徒の割合（配信科目受講生徒平均）（4点満点における80%の3.2が最終目標値）			

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		16	16	16
実績値	16	16	16	-

(参考) 上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		11	11	11
実績値	11	11	11	-

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		5	2	1
実績値	5	5	3 (益田1(書)) (吉賀2(美・音))	-
構成校の数	4			

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：取組を通じて育成を目指す資質・能力（地域愛の醸成）に関する生徒の意識変容

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			73.0%	75.0%
実績値	71.2%	69.0%	68.8%	
目標設定の考え方	高校魅力化アンケートの質問項目「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合（4校平均）			

成果目標②：取組を通じて育成を目指す資質・能力(主体性)に関する生徒の意識変容

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値			62.0%	65.0%
実績値	59.0%	60.8%	64.2%	-
目標設定の考え方	高校魅力化アンケートの質問項目「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ考える学習に対して、熱心に取り組んでいる。」に肯定的な回答をした生徒の割合(4校平均)			

成果目標③：遠隔授業に対する生徒の満足度の変容

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値			3.0以上	3.2以上
実績値			3.4	-
目標設定の考え方	遠隔授業に対する授業アンケート(各学期)から、授業満足度(4~1)に対し肯定的な回答をした生徒の割合(配信科目受講生徒平均)(4点満点における80%の3.2が最終目標値)			

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標(アウトプット)

(1) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	4	-
見込み		0	4	4

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	4	4	4	-
見込み		4	4	4

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：遠隔授業の公開授業時数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	1	-
見込み		4	4	4
活動指標の考え方	校外に対する遠隔授業の公開授業の時数			

活動指標②：成果発表の場の回数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績		0	0	-
見込み		1	2	4
活動指標の考え方	構成校以外の学校等を対象とする成果発表の場の回数			

7. 次年度以降の課題及び改善点

【遠隔授業】

(遠隔授業を行う運営体制について)

本年度の学校拠点方式のデメリットについては検証ができていますが、センター方式であれば実施ができるということが検証できたわけではないことから、センター拠点による授業配信双方のメリット・デメリットについて調査研究する必要がある。

(教育課程の共通化)

授業時間割については JR 等の外的要因等から共通化を諦めたが、教育課程等については引き続き可能性について検討を行う。また、探究学習の進め方やテーマ設定、中間発表、最終発表等の発表の機会を複数校で持つことを遠隔の技術を用いて行うことを検討する。

(遠隔授業に必要な I C T 環境について)

今年度、ネットワーク増強もあることから新ネットワークの敷設後は 1 人 1 台端末を用いて全員が Google Meet に入って授業を受講するなどより質の高い授業の実現について検証を行う。

(授業づくり・生徒の見取り・評価について)

次年度の授業は、演習を含む情報、地図等の細かな作業のある地理 A、対話の場面が多い倫理などそれぞれの授業に特徴があることから、それぞれの授業の進め方、ICT 活用など、効果的な授業ができる授業デザイン、見取りの手法、評価方法を検証する。

(受信校で授業に立ち会う者の資質や役割について)

令和 4 年度の各サポート教員が得た知見を整理し、サポート教員の役割とトラブル対応などの対処方法をマニュアル化する。更に次年度は教室内のファシリテーションなど授業者と協力して授業を進めるなどサポート教員の積極的な関与により授業がどのように変化するか検証を行いたい。

(遠隔授業を受けた生徒の評価や変容について)

本年度受講生徒のアンケートから対面授業との差として意見を授業者に伝えにくい、質問がしにくいなどという意見があったことから遠隔授業の受講生徒の発言、質問等への対応について、チャット等の活用やサポート教員の関わり方等検証を行いたい。

【コンソーシアム】

(コンソーシアムの体制について)

県内のコンソーシアムには、1 校 1 コンソ、複数校 1 コンソの 2 タイプがあるため、課題等を整理する。CORE 4 校も、双方のタイプがあり、それぞれ工夫した運営をしているが、複数校 1 コンソについては運営面に課題がある。

(コンソーシアムの運営について)

コンソーシアムについての共通理解を深める方法に課題がある。管理職や一部の教職員には理解が進んでいるものの、その他の教職員や地域関係者には十分とは言えない。研修の更なる充実、高校魅力化チェックシートの活用を進める。

(コンソーシアムを通じた教育課程内の取組について)

総合的な探究の時間等における合同学習による学びの深化を進める。今年度は放課後に2校で合同探究発表を実証検証した。次年度は拡大してその効果を検証したい。

(コンソーシアムを通じた教育課程外の取組について)

放課後等における探究学習の生徒間交流による学びの深化について検証が必要である。今年度は2校で放課後に実証を行った。次年度は参加グループや参加校を拡大してその効果を検証したい。

(持続化のための資源獲得について)

各校コンソが確保している探究学習等に関わる地域人材の交流と相互活用による探究学習の深化について、探究学習やキャリア教育の場面では、各校の持つ地域人材だけでは不足がちである。生徒の合同学習の場や県教委主催のしまね探究フェスタ等を通じた人材の交流を通して検証を行う。

(設置者である都道府県教委の役割について)

コンソーシアムへの県教委としての伴走の在り方について、グランドデザインP D C A研修や高校魅力化チェックシートの有効性について検証したい。また、併せてグランドデザインP D C A研修等での好事例の共有や高校魅力化チェックシートの各校での活用等についてのヒアリングを実施する。